

# 上宮寺通信

第七十五号

## 三つの「夢のお告げ」

親鸞聖人のご命日(11月28日)にあわせ、京都・東本願寺では報恩講がとまります。

親鸞聖人は90年の生涯を通してお念仏の教えを世に広められた方として歴史の教科書にも載っていますが、念仏の師・法然上人に出会うまでの前半生の歩みについてはあまりわかっていません。

前半生の数少ないエピソードの一つが「夢告(夢のお告げ)」です。親鸞聖人が生きた中世においては「夢」がとても大切にされたといわれていますが、実は法然上人に出会うまでに、この「夢告」を三回うけたと伝えられています。

一回目は親鸞聖人が19歳、聖徳太子のお骨が奉られている磯長の御廟(現大阪府南河内郡)へ参籠した時でした。夢の中で

聖徳太子に「あなたの寿命はあと10年である。しかし寿命が終われば直ちに弥陀の浄土に生まれるだろう」と余命宣告をされ、しまったのです。

その夢告をうけてから10年が経とうとする時、「このままでもいいのだろうか」と悩んでいた親鸞聖人は比叡山の大乗院で二回目の「夢告」をうけます。またしても聖徳太子が夢に現れ「あなたの願いは今まさに成就する」と告げるのです。

親鸞聖人はこの夢告を一つのきっかけとして比叡山を下りる決意をします。それから新たな道を求めて百日にわたり毎晩、

比叡山から京都・六角堂へ参籠をするのです。

百日にわたる六角堂への参籠の間に、京の都で念仏の教えを広めている法然上人に出会われます。そして六角堂への参籠がいよいよ終わろうとする95日目の明け方、三回目の「夢告」を受けるのです。

それは聖徳太子の化身である観音菩薩が「もし、あなたのもとへ女性があらわれ結婚を悩むようならば、私とその女性となりあなたを浄土へと導いてあげよう」という『女犯偈』といわれるお告げでした。

法然上人は「念仏申す」ことが一番大事で、僧侶であろうと結婚の有無を問わないという方でした。親鸞聖人の六角堂での夢告は、法然上人のもとへ行く

決意をますます強いものにさせたといえるでしょう。

親鸞聖人が19歳の時に受けた余命宣告は、法然上人に出会い新たな人生を歩むまでの10年を指していたともいえます。この三回の「夢告」に背中を押されるように念仏の道へと歩まれることとなったのです。

もしかしたら私たちも今日見る夢が人生を左右するかもしれません。



◆行事案内

報恩講

11月8日(金)午前10時

法要 引き続き 法話

法話 伊奈祐諦 師

(西尾市安楽寺前任職)

※午前みの法要です。持ち帰り用の軽食をご用意いたします。

本山報恩講団体参拝(日帰り)

11月21日(木)

東本願寺報恩講(逮夜)参拝、醍醐寺(三宝院)見学 他

修正会

1月1日(元旦・水)

午後2時

年の初めにぜひお寺にお参りください。

◆話題あれこれ

○11月8日(金)は上宮寺の報恩講をおつとめいたしました。皆様のご参詣をお待ちしております。

○さる10月13日に、上宮寺前々坊守(清願院釋尼妙數)の七回忌法要をおつとめいたしました。はやいもので丸6年が経ってしまいました。



東本願寺 報恩講

11月21日(木) ~ 28日(木)

名古屋別院 報恩講

12月13日(金) ~ 18日(水)

○来月17日の名古屋別院報恩講期間中のリレー法話で住職が話をさせていただきます。時間は午後8時40分から30分間と遅めの時間となります。テーマは『歎異抄』第10章です。

○今月は京都・東本願寺で報恩講、来月は名古屋別院で報恩講といよいよ報恩講のシーズンがやってまいります。そしてすぐ年末です。体調を崩さぬようにご自愛ください。

○ホームページ、公式LINEもよろしく願います。



ホームページ



公式LINE

【雑感】

10月は衆議院選挙があったのですが、それより大きな関心事は運命のドラフト会議。中日ドラゴンズは今年の超目玉、関西大学の金丸投手を指名。四球団競合の末、見事に井上新監督が交渉権を引き当てました。ドラフトなんぞ興味のない人にはどうでもいい話ですが、とかく明るい話題の少ないドラゴンズ。このときばかりは優勝したかのようにファンとしては夢見心地でした。でも、ここからが大事です。ドラゴンズを支えるような選手に育て、なんとか悲願の優勝を！期待しています。(住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和区白金一丁目十九番十五号

☎052-871-0547